

1616年の開窯から400年以上の時を経たいまなお、日本有数の陶芸の産地として世界的に高い評価を得る佐賀県の有田。そんな伝統と歴史に裏打ちされた有田焼の確かな技を現代のかたちとして伝えるために生まれた陶磁器ブランド、1616 / arita japanが、デンマークの陶芸家、リカード・マンツのコレクション「1616 / MANZ "CONTOUR" (1616 / マンツ "コンツアー")」を新たに追加した。

リカード・マンツは1933年、ドイツ生まれの陶芸家。シュトゥットガルト美術アカデミーで陶芸を学び、ストーブタイル職人として訓練を受けたあとに、56年~65年にかけてスウェーデンを代表する陶磁器メーカー、グスタフスベリに勤務。66年にデンマークに移住し、妻のポディルとともに工房を設立した。

リカードは世界各国を旅しながら陶芸の技を極めていったが、75年来日し、数か月を有

田で過ごした。その旅に同行していたのが妻のポディルと、娘でありデザイナーとして活動するセシリエ・マンツだ。本コレクションの制作にあたり、世界したリカードの遺志を継ぎ、ポディルとセシリエがディレクションを担当。リカードが生産をかけて磨きあげた茶器のかたちを家族全員で現代に継がせた。

高台がついた「Tea Cup」は、ふっくらと丸みを帯びており、持ち上げた時に自然に手に馴染む

かたち。一方「Hotcha Cup」は、当初リカードがデザインしたものに、ポディルがリンゴの絵を描き、「アップルカップ」として親しまれていたものだ。すっと立ち上がった先の口縁をわずかに広げることで、滑らかな飲み心地を味わえる。

どちらもスタッキング可能なので、収納にも便利。お茶のほか、コーヒーカップや小鉢として料理を盛るなど、日常のシーンで幅広く活用できそうだ。

親子2代の想いを継いだ、有田焼の新しい茶器

「1616 / MANZ "CONTOUR"」

1616 / arita japan
https://1616arita.jp



右「Tea Cup」は艶のあるブラウンとブルー、内側のみに絵画をかけた外側は柔らかなナチュラルの3色から。φ90mm×H74mm、250ml ¥3,520 左「Hotcha Cup」は青磁色の釉薬仕上げのセラドンとクリアなナチュラルの2色が揃う。φ80mm×H62mm、150ml ¥3,300。どちらも使い勝手がよく、整然と積み重ねて収納することができる。

アジアから世界へ、
バリ島発のデザインイベントがさらに拡大

「Jia CURATED 2025」

デザインイベント「Jia CURATED 2025」が、インドネシアのバリ島で開催される。雑誌「Design Anthology」の発行者、スージー・アネッタが企画する、インドネシアを舞台に進む建築プロジェクトの模型展やクリエイティブ集団、Millimeter Manifestoによる廃材を活用した家具の展示など、前回は大きく上回る200組以上が参加。日本からも柳原照弘や島本仁らがプロジェクトを発表するなど、アジアデザインの興行を感じられるイベントになりそうだ。



昨年の会場風景。今回は、20年以上前に閉鎖したアミューズメントパークを再利用した「Bali Festival Park」が会場となる。朽ちかけた建物に植物が生い茂り、遺跡のような幻想的な風景の中で、展示が行われる。

6/14~16 Bali Festival Park(インドネシア、バリ島)
www.jiacurated.com

富士山の麓で体感する、
心地よい住まいのつくり方

カーサミア河口湖

アルフレックス ジャパンが運営し、豊かなライフスタイルのあり方を体感できる施設「カーサミア河口湖」が大々的にリニューアルされた。富士山麓の広大な敷地の中には、自然と溶け合う「Sunlight House」、落ち着いた趣の「Heritage House」、自由な感性が競合する「Terraced House」の3つのモデルルームが点灯。家具や照明のほか、小物やアートなど、細やかに構成された空間で、家具選びや住まいづくりのヒントを多様な視点から学びとれる。



敷地は1987年、建築の趣は異なり、2025年を大幅にアップデートした。

山梨県南都留郡河口湖町7261 ※オープン日は不定期開催(要事前予約)
アルフレックス ジャパン www.arflex.co.jp/0426104-kawaguchiko